

周辺地域と連携した甌島地域の観光活性化に係る調査事業－調査報告書概要版－

【事業概要】

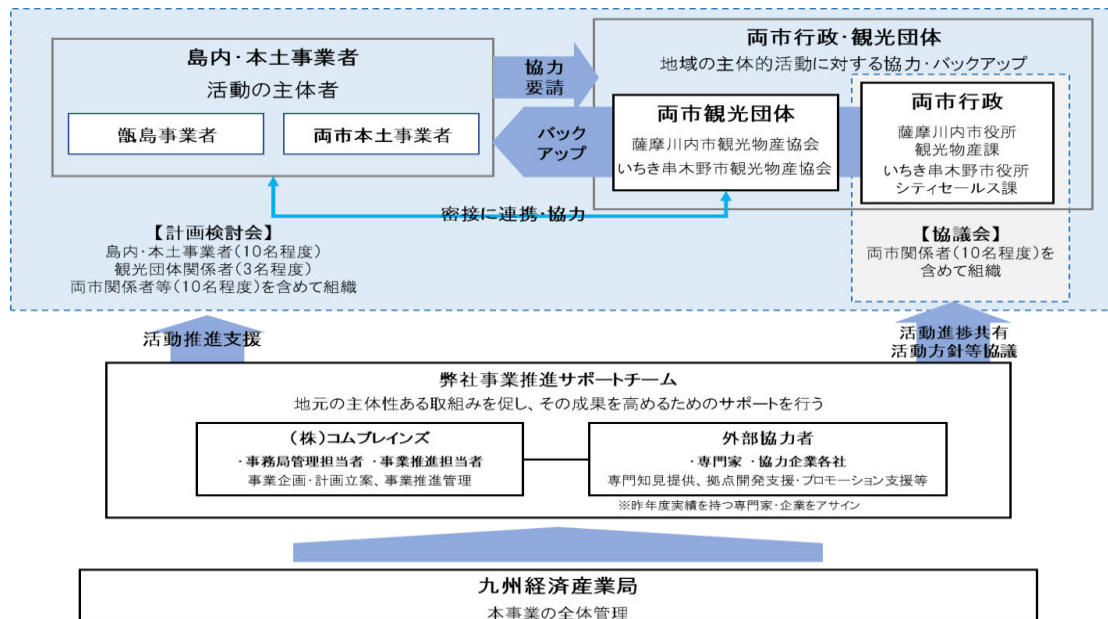
甌島への定期船の発着港をもつ薩摩川内市及びいちき串木野市（以下、「両市」という）が連携し、本エリアのアフターコロナ対策として広域観光モデルを構築するとともに、行政主導から民間発案の主体的活動を起動し、島内事業者間の関係強化と両市本土事業者の連携で、広域観光を軸とした「新しい甌の楽しみ方（＝付加価値）」を創造し、“稼げる観光”実現を目指す必要がある。

本事業は、甌島、薩摩川内市本土、いちき串木野市本土（以下、「3エリア」という）が連携して広域での観光活性化を図ることを目的として、令和3年度からスタートした。

初年度のコロナ後の地域の現状把握と課題整理を踏まえ、2年目の令和4年度には専門家の知見提供を通じて、ポストコロナの観光流動の新しい潮流を学び、3エリアの広域観光の可能性について検討、協議し、3年目となる令和5年度には、ポストコロナの新しい行動様式を捉えた事業のひとつである「多拠点居住サービス」を提供する企業の協力を得て、3エリアでの同サービスの滞在拠点開発を行うとともに、実際に会員に3エリアでの滞在を体験してもらうモニターツアーを開催し、本事業で新たに設定した「中長期滞在」を志向するターゲットに対する3エリアのポテンシャルを検証することとした。今年度事業では、下記4項目に留意し、3エリアの広域的な観光誘客の仕組みづくりに取組んだ。

- | | |
|--------------|--|
| (1) 広域連携体制構築 | 3エリア観光事業者の連携を進め広域連携の体制を構築 |
| (2) 広域ルート開発 | 3エリア回遊という具体的な滞在行动に結びつけるための体験型旅行商品等を検討 |
| (3) プロモーション | 本事業を象徴するプロモーションを実施し、3エリアの認知度向上を図る |
| (4) 広域観光推進 | 検討した旅行商品等をモニターツアー等で実施・検証し、今後の活動の方向性を抽出 |

【事業推進体制】



【事業内容】

(1) 2市広域連携の更なる推進のためのデザインづくり(広域連携体制構築)

- 計画検討会 5回開催（参加者：薩摩川内市役所、いちき串木野市役所担当者、両市観光団体担当者、専門家等が参加）
- 協議会(事業進捗の報告・共有) 2回開催（参加者：薩摩川内市役所、いちき串木野市役所担当者を中心としてメンバーが参加）

(2) 中長期滞在者をターゲットとした具体的な観光戦略の検討 (広域ルート開発、広域観光推進)

- ①体験型旅行商品の開発
- ②滞在拠点の開発支援（広域ルート開発、広域観光推進）

(3) 継続的な魅力発信(プロモーション)

3エリアの特徴を組合せた魅力を言語化・ビジュアル化した発信を通じて、県内及び九州管内等での本地域の認知度向上を図る

		令和5年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	令和6年 2月
マスター		キックオフ	活動方針・体制・役割分担の確認 具体的な取り組み内容の協議検討	モニターツアー実施に向けた 準備調整	モニターツアーアンケート、インタビュー分析 令和6年度以降の中期的な活動方針、 令和6年度の活動計画のとりまとめ			
① 2市広域連携の更なる推進の ためのデザインづくり	計画検討会	検討会1回目		検討会2回目	検討会3回目		検討会4回目	検討会5回目
	協議会			協議会1回目	【トライアル展開】モニターツアーの実施			協議会2回目
② 中長期滞在者をターゲットとした 具体的な観光戦略の検討	①体験型旅行商品	・商品開発の方向性の整理 ・中長期滞在者を想定した内容検討 ・拠点運営事業者との調整		・拠点事業者との意見交換 ・拠点周辺の連携事業者との調整		・モニターツアーを経ての成果と課題の抽出 ・体験型旅行の充実に向けた活動方針の検討 ・拠点及び体験・飲食等関連事業者の拡大に向けた取り組みの検討		
	②拠点開発支援	・拠点開発の方向性整理 ・行政の拠点開発支援内容の確認 ・協力企業によるサポート内容の確認		・拠点事業者による受入れ準備 ・両市役所による支援の実行		・モニターツアー協力拠点事業者へのヒアリング ・今後の拠点開発支援の方向性の検討 ・新規参画希望の事業者へのアプローチ ⇒協力企業との交渉調整		
(3)継続的な魅力発信 (プロモーション)		・展開内容の検討 ・協力企業の支援内容の確認 ・コンテンツ制作準備		協力企業連携 ・モニター募集 ・オンラインイベント告知 ・関連記事掲載		・今後の3エリア広域連携の情報発信についての対応検討 ・両市役所、観光団体の役割割について検討		
				告知ツール (例)観光案内所等でのポスター、チラシ、MAP等の展開				

事業報告書・令和6年度以降の中長期活動方針・令和6年度活動計画 納品

(1) 2市広域連携の更なる推進のためのデザインづくり(広域連携体制構築)

【実施内容】 ●計画検討会（5回）、○協議会（2回）の開催

● 8/7 1回目計画検討会（キックオフ、今年度の活動方針、計画の確認）
・ 昨年度までの活動の振り返り、今年度計画の共有
・ 今年度活動に関する協議 など
● 10/13 2回目計画検討会（中長期滞在者をターゲットとした取組みについての協議）
・ これまでの進捗状況の共有
・ モニターツアー、オンラインイベントについての検討 など
○ 10/30 1回目協議会（途中経過の共有）
・ モニターツアー、オンラインイベントの調整状況、今後のスケジュール等確認
● 11/6 3回目計画検討会（モニターツアー、オンラインイベントの振り返り）
・ モニターツアー、オンラインイベント振り返り
・ 今年度事業の着地、次年度以降の取組み方針について協議 など
● 1/18 4回目計画検討会（モニターツアー、オンラインイベントの振り返り）
・ 今年度事業の着地、年度内スケジュールの検討
・ 次年度骨子（現状素案）、次年度以降の取組み方針について協議 など
○ 2/9 2回目協議会（第5回検討会に向けた確認）
・ 検討会議議、資料の確認、年度末に向けてタスク確認
● 2/15 5回目計画検討会（今期の振り返り、次年度以降の取組み協議）
・ 今期活動の振り返り、専門家からの提言共有
・ 次年度以降の取組み、R6年度実施内容について意見交換 など



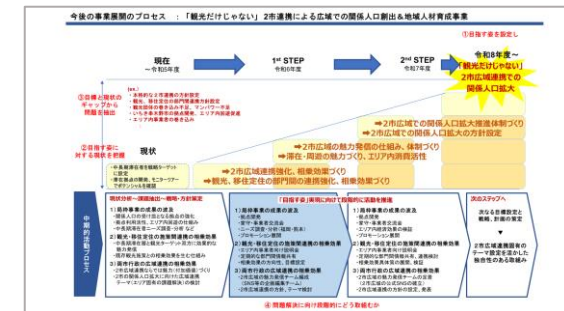
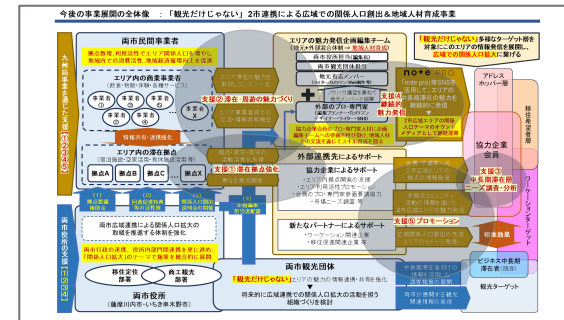
議題	資料
1. 今年度の振り返り 2. 今年度の振り返り 3. 今年度の振り返り 4. 今年度の振り返り 5. 今年度の振り返り 6. 今年度の振り返り 7. 今年度の振り返り 8. 今年度の振り返り 9. 今年度の振り返り 10. 今年度の振り返り 11. 今年度の振り返り 12. 今年度の振り返り 13. 今年度の振り返り 14. 今年度の振り返り 15. 今年度の振り返り 16. 今年度の振り返り 17. 今年度の振り返り 18. 今年度の振り返り 19. 今年度の振り返り 20. 今年度の振り返り 21. 今年度の振り返り 22. 今年度の振り返り 23. 今年度の振り返り 24. 今年度の振り返り 25. 今年度の振り返り 26. 今年度の振り返り 27. 今年度の振り返り 28. 今年度の振り返り 29. 今年度の振り返り 30. 今年度の振り返り 31. 今年度の振り返り 32. 今年度の振り返り 33. 今年度の振り返り 34. 今年度の振り返り 35. 今年度の振り返り 36. 今年度の振り返り 37. 今年度の振り返り 38. 今年度の振り返り 39. 今年度の振り返り 40. 今年度の振り返り 41. 今年度の振り返り 42. 今年度の振り返り 43. 今年度の振り返り 44. 今年度の振り返り 45. 今年度の振り返り 46. 今年度の振り返り 47. 今年度の振り返り 48. 今年度の振り返り 49. 今年度の振り返り 50. 今年度の振り返り 51. 今年度の振り返り 52. 今年度の振り返り 53. 今年度の振り返り 54. 今年度の振り返り 55. 今年度の振り返り 56. 今年度の振り返り 57. 今年度の振り返り 58. 今年度の振り返り 59. 今年度の振り返り 60. 今年度の振り返り 61. 今年度の振り返り 62. 今年度の振り返り 63. 今年度の振り返り 64. 今年度の振り返り 65. 今年度の振り返り 66. 今年度の振り返り 67. 今年度の振り返り 68. 今年度の振り返り 69. 今年度の振り返り 70. 今年度の振り返り 71. 今年度の振り返り 72. 今年度の振り返り 73. 今年度の振り返り 74. 今年度の振り返り 75. 今年度の振り返り 76. 今年度の振り返り 77. 今年度の振り返り 78. 今年度の振り返り 79. 今年度の振り返り 80. 今年度の振り返り 81. 今年度の振り返り 82. 今年度の振り返り 83. 今年度の振り返り 84. 今年度の振り返り 85. 今年度の振り返り 86. 今年度の振り返り 87. 今年度の振り返り 88. 今年度の振り返り 89. 今年度の振り返り 90. 今年度の振り返り 91. 今年度の振り返り 92. 今年度の振り返り 93. 今年度の振り返り 94. 今年度の振り返り 95. 今年度の振り返り 96. 今年度の振り返り 97. 今年度の振り返り 98. 今年度の振り返り 99. 今年度の振り返り 100. 今年度の振り返り	



【総括】

- ・ 当初計画通り、計画検討会5回、協議会2回を開催。両市自治体担当者を中心に、2市広域連携推進のための協議が行われた。
- ・ それぞれの市での観光の取組みが行われており、ある意味ライバル関係でもある両市が、双方が定期航路を持つ「甌島」を含む3エリア広域での観光流動の促進を図るというテーマで、専門家の指導も受けながら幅広い視点から議論を重ねることができた。
- ・ 専門家からは、観光だけに留まらない行動様式が急速に広がりつつある現状について知見提供を受けており、著名な観光地や資源に乏しいこのエリアは「観光とは異なる土俵」での戦いを検討するべき、という視点から、ワーケーションやアドレスホッパー等コロナ以降に増加傾向にある「中長期滞在者」をターゲットとした取組みへの助言を受け、多拠点居住サービスを提供する企業の協力を得て、中長期滞在者の受け皿となる滞在拠点の開発と拠点を中心とした関係人口拡大を目指して、議論を重ねてきている。
- ・ 後述するモニターツアーを経て、中長期滞在者を対象とした取組みを進めるにあたって、移住定住部門との連携の必要性や既存の観光ターゲットを対象とした取組みとの相乗効果に関する意見が出され、それらも踏まえ、次年度以降の取組みについての検討を進めた。
- ・ 第4回目、5回目の計画検討会には両市役所から、移住定住部門の担当者にも加わってもらい、部署間の横断的な情報共有や連携した取組みにつなげることができたが、事業の窓口が観光部門であることから、「観光面での成果」を求める意見や、今期協力企業だけではなくサポート企業の参画を求める意見も出るなど、今期事業を実施したことで、新しい方向性や今後の取組みへの地元の考えを抽出することができたのは成果と言える。
- ・ 一方で、両市観光団体については、本質的な議論や具体的な取組みに巻き込むことができず、今後の課題となった。次年度に向けては、観光団体にとっての参加メリットや意義を明確にしつつ、活動にともなう費用面についても設定を検討し、年度当初からの調整を進めていくことができればと考える。
- ・ 年間を通じた協議を踏まえ、次年度以降の取組み方針や次年度の取組み内容についての議論と一定の整理が進み、令和6年度は、ここまでの取組みの成果をベースに、「3エリアの関係人口拡大」に向けた具体的な内実づくりに着手し、段階的に取組んでいくという枠組みについてはオーソライズを得ることができたと考ええる。

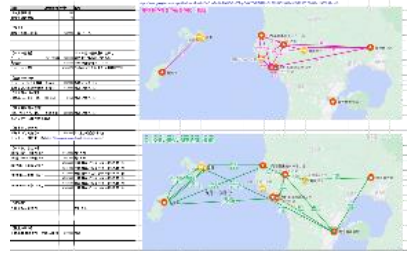
(第5回計画検討会 資料)



(2) 中長期滞在者をターゲットとした具体的な観光戦略の検討 (広域ルート開発、広域観光推進)

①体験型旅行商品の開発 : モニターツアーの開催 (11/2~5 4日間)

ポストコロナ以降、ワーケーションやスタディツアー、アドレッシング等、観光だけに留まらない関係人口の新しい潮流についての学びを得て、今年度事業では、「中長期滞在者」をターゲットとした、3エリアの可能性を調査するモニターツアーを実施することとした。



モニターツアー企画にあたっては、両市行政・観光団体、観光関係事業者(拠点運営者)の協力を得て検討、準備にあたった。拠点運営者に加え、行政・観光団体から、3エリアの飲食店や体験等のスポットや観光情報等を収集し、事前にモニター参加者に提供、モニターツアー滞在時のエリア回遊状況やアンケート等を通じて、満足度や費用対効果などを分析し、3エリアの関係人口拡大に向けた今後の活動方針、具体的内容の検討につなげることにした。

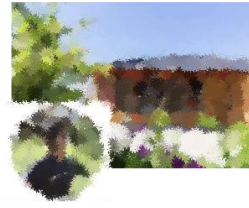
モニター参加者からのアンケート等から、3エリア広域の滞在の魅力づくりや情報発信の在り方、経済波及効果を高めるための課題抽出等を調査分析したレポートを作成。

計画検討会等で両市行政、観光団体と共有し、今後の活動の検討にフィードバックした。

②滞在拠点開発支援 : 多拠点居住サービス企業と連携した拠点開発

甕島と両市本土側にそれぞれ拠点を開発することを目標に取組んだ結果、甕島には上甕島、下甕島それぞれ1物件、薩摩川内市本土の市比野温泉に1物件が稼働開始できた。

FUJIYA HOSTEL
甕島A邸



市比野温泉 湯宿弁天
薩摩川内A邸



室原邸(下甕島) ※2月末見込み
甕島B、C邸



モニターツアー参加者アンケート等の収集分析を通じて、中長期滞在者をターゲットとした拠点活用について検討し、今後の活動の方向性を導き出した。

1) 宿泊施設(滞在拠点)を中心とした地域との交流

アンケート等では、拠点管理者(=家守)を通じた地域交流を求める傾向が高いことから、家守から周辺地域の飲食、体験、近隣拠点の情報提供を促す仕組みづくりが求められる。

2) 周辺エリアの観光

観光パンフの情報よりも家守や地元生活者の推奨によって行動を選択する傾向が強いことから、各拠点で家守が周辺情報を提供できるツール(チラシ等)の展開等も有効と考えられる。

3) 提供できる付加価値

通常の観光ツアーと異なり、地域の人たちとの交流を通じた「地元ならではの体験」に価値を感じる傾向が強いことから、拠点を中心とした地域との交流機会、接点を増やし、地域ならではの食や体験、特産品の購入等エリア内での消費を促す工夫が必要である。

(3) 継続的な魅力発信(プロモーション)

【実施内容】

○協力企業連携オンラインイベント(11/4開催) ○モニターツアーを契機とした情報発信

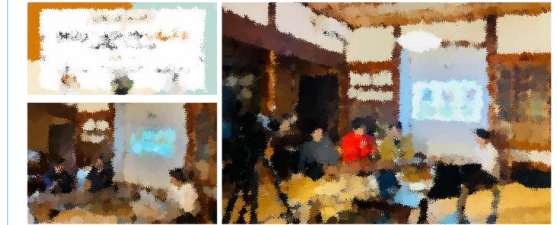
【総括】

- 今年度展開は、中長期滞在者という本事業で設定した新たなターゲットを対象としたトライアル展開であることから、通常のメディアによるプロモーション展開ではなく、展開パートナーである協力企業の協力による情報発信を中心に、その他は地元メディアのパブリシティ展開による情報発信を想定して計画、実施した。
- 協力企業連携オンラインイベントについては、事前の告知からオンラインイベント当日、事後の動画アーカイブ配信まで、協力企業の協力によって、同社の会員、および会員候補を含む多くの方に3エリアの情報を発信することができた。
- 加えて、モニターツアー参加のモニターや同社関係者によるSNS発信の波及効果は、同エリアの拠点の稼働実績や具体的な人の交流につながっているなど、数値だけでは測れない効果があり、「関係人口」という観点からも、その成果が出ていることが確認されており、今後この成果をいかに積み上げ、波及させていくことができるかが課題である。
- 次年度以降の取組みの協議において、両市役所担当からは「プロモーションは伝える内実ができてからがするべきではないか。」との意見も出るなど、まずは協力先(次年度は今年度協力企業以外にも含む)との連携による情報発信を最大限活用しながら、伝えるべき内実を積み上げてからメディアを活用するプロモーションを検討するという方針で取組みたいと考える。

◆オンラインイベント(11/4)開催

【本日のオンラインイベント】

月額制多拠点生活サービスを提供する株式会社アドレスと甕島を含む薩摩川内市、いちき串木野市の事業者がタグを組んで実現した、中長期滞在者向けモニターツアー開催に合わせたトークイベント

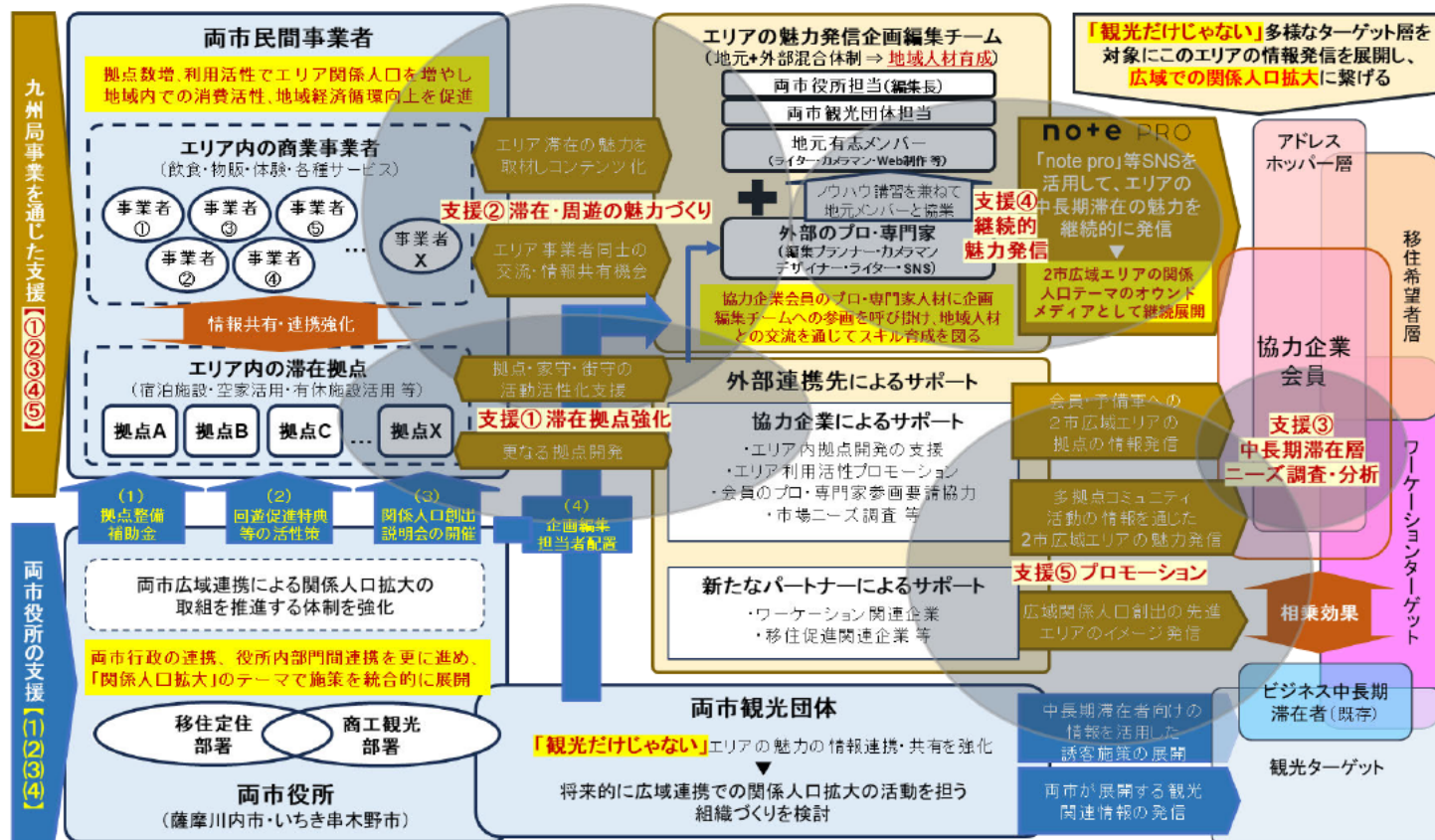


◆モニターツアー参加者、関係者SNSでの発信



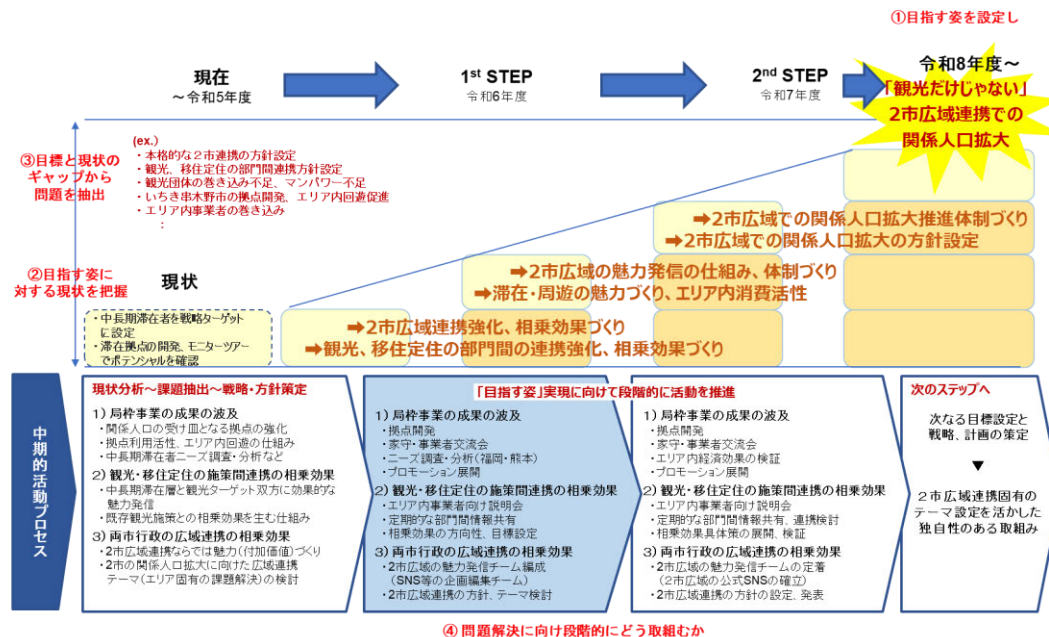
次年度以降の展開の方向性

- 今後の事業展開の全体像 : 「観光だけじゃない」2市連携による広域での関係人口創出&地域人材育成事業



【次年度以降の取組み方針】

今後の事業展開のプロセス：「観光だけじゃない」2市連携による広域での関係人口創出&地域人材育成事業



令和6年度事業骨子

次年度以降の中長期的な方向性を踏まえ、まずは令和6年度事業ではどう取り組むか？

1. 2市広域連携の更なる推進のためのデザインづくり（広域連携体制構築）

本事業の主体である島内・本土事業者、両市役所及び観光団体関係者を中心とした計画検討会を運営し、下記2.①～⑤を実施するための体制構築・計画策定・準備等を行う。

2. 「観光だけではない」2市連携による関係人口拡大戦略の検討・推進

- ①滞在拠点の強化
- ②滞在する魅力、周遊する魅力づくり
- ③中長期滞在者のニーズ調査・分析
- ④継続的な魅力発信の仕組み（2市連携のオウンドメディア）づくり
- ⑤九州圏内への認知拡大を図るプロモーション展開

【次年度以降の取組み方針】

R6年度 取組内容検討のための企画

①滞在拠点の強化

- 1) **拠点開発支援** (自治体からの候補リストへの対応が基本)
いちき串木野市を最優先に本土側の拠点候補運営者への事業説明、助言等に対応し、拠点契約までを支援。
- 2) **拠点の活性化支援**
既存拠点の稼働状況や会員からの評価等を踏まえ、各拠点運営者に対してハード、ソフト両面の改善点や会員対応へのアドバイス等を提供。
- 3) **地域向け説明会、相談会対応**
両市で協力企業拠点に関心を持つ層(空家・賃貸物件オーナー、宿泊施設オーナー等)を対象に、事業説明会、個別相談会等に対応。

②潜在する魅力、周遊する魅力づくり

- 1) **エリア内交流会** (家守、関連事業者の情報共有、交流の場)
既存拠点の家守、拠点周辺の飲食、体験等の事業者を中心に、本取組みに関心のある地域事業者を集めての情報共有、交流の場を設定。中長期滞在者を対象とした関係人口づくりの取組み状況、拠点稼働状況、滞在者の声などを共有し、来訪者のエリア内での回遊促進や消費活性化のための工夫や協力の仕組みについても検討。
- 2) **エリア潜在の魅力を取材し発信**
④のオウンドメディア活動の一環として、企画編集チームによるエリア内の魅力を取材しコンテンツ化する。家守や協力企業会員等滞在者のインタビューや拠点とその周辺での中長期滞在ならではの過ごし方を取材・編集し映像やWebコンテンツを通じて発信。
エリア内の拠点とその周辺のおすすめ情報を紹介するツール(チラシ等)の制作も検討。

③ニーズ調査・分析

- 1) **ワーケーションニーズ調査・分析** (福岡、熊本を対象市場と想定)
福岡(幹線アクセス)や熊本(自家用車アクセス)などを対象エリアとして、ワーケーションを積極的に展開している企業等の協力で、3エリアのワーケーションに対するアンケート、インタビュー等を実施。結果の分析から本エリアでのワーケーション活性化の課題を抽出し解決策を検討。
- 2) **スタディツアーの検討** (両市広域でのテーマとカリキュラム開発) ※観光団体参加
国内先進地の事例調査や専門家の支援を受けながら、本エリアでのスタディツアーの可能性について研究し、具体的なテーマやカリキュラムの検討を行う。スタディツアーに関心のある企業等を協力パートナーとしてモニターツアー等を行い、将来的な商品化、両市観光団体の「売り物づくり」につなげる。

R6年度 取組内容検討のための企画

④継続的な魅力発信の仕組み(2市連携のオウンドメディア)づくり

- 1) **3エリア魅力発信企画編集チームの編成**
2市行政、観光団体、民間が連携して3エリアの魅力を掘り起こし、SNS等を活用して継続的に発信する「3エリア魅力発信企画編集チーム(仮称)」を編成。専門家の支援を受けながら、体制づくり、活動計画づくりを行う。
- 2) **協力企業会員を講師としたワークショップ**
魅力発信の体制、仕組みづくりは、取材・ライター・撮影等専門的知識を持つ協力企業会員を講師に迎え、地域の人材はワークショップ形式で企画、取材、編集から情報発信までを実践的な取組みを通じて経験しながら学ぶプログラムとする。
年間数回のワークショップを経て、地元人材がスキルを身に着け、将来的に継続的な情報発信の担い手となることを狙った取組みとする。
- 3) **既存観光施策との相乗効果の企画・トライアル** ※観光団体参加
新たなターゲットである中長期滞在層と既存の観光ターゲット双方に効果的な魅力発信や相乗効果を生む仕組みを観光団体と共に検討。既存の観光施策の稼働状況やエリア内の入込情報等の分析、③のニーズ調査の結果を踏まえ、新しい情報発信の方法等を専門家の支援を受け企画、トライアルを行う。

⑤九州圏内への認知拡大を図るプロモーション展開

- 1) **九州圏内でのメディア活用プロモーション展開**
本事業を通じて薩摩川内市、いちき串木野市が連携して観光だけにとどまらない3エリアの魅力や関係人口拡大に取組んでいる経緯を発信し、県内および九州管内等での3エリアの認知度向上を図るために、九州管内のメディアを活用したプロモーション展開を検討・実施。
ex.福岡エリアの新聞、FM等メディアとタイアップし、3エリアの中長期滞在やワーケーション受入れの取組みについて情報発信。
- 2) **地元メディアを活用したパブリシティ展開**
本事業での様々な取組みを鹿児島県内のメディアを通じて発信するために、モニターツアーやワークショップ等、事業の取組みをプレスリリースで配信し取材誘致、記事露出を図る。

◎その他

- 1) **協力パートナー企業とのタイアップ企画**
協力企業をはじめとする協力パートナー企業の取組みと連携して、3エリアの魅力づくりや情報発信につなげる取組み
ex. ターゲット向け情報発信、ワーケーションや移住体験のモニターやトライアル、
- 2) **両市観光団体連携による補助事業申請**
観光庁や経産省等が公募する観光や関係人口拡大を対象とした補助事業に両市観光団体として申請。事務局、専門家が申請の計画づくりを支援。